

1 はじめに

本校は、教育目標に「夢の実現に向けて 生き生きと学び、高め合う成沢っ子の育成」を掲げ、「チーム」そして「オール」で学校づくりを目指している。これを踏まえて、子どもの自律と社会の一員としての自覚を促す指導を充実させ、児童による自治的活動を位置付けた活動を実践している。

2 実践内容

(1) 創立 150 周年記念集会の企画・運営

本年度、成沢小学校は創立 150 周年を迎えた。運営委員会では、前年度の委員会児童との引き継ぎのもと、学校の成り立ちや校舎の変容、戦時中の学習などについて調べ、資料にまとめ発表した。さらに、成沢小学校に関する〇×クイズを行い、運営委員会児童だけではなく、在校生や卒業生など、成沢小学校への所属感を感じることができた。

運営委員会児童は、企画や当日の進行など、発表への意欲も高まり、学校の代表としての自覚や自信が芽生える姿が見られた。



(2) 愛校作業（除草）の運営

9 月には 2 日間に渡って、グラウンドの整備・除草作業を行った。運営委員会児童が放送により、全児童に愛校作業を行うことを周知したり、当日は、除草したものを回収したりするなど、学校の中心となって活動した。

それぞれの学年では、授業や休み時間などに使用するグラウンドを気持ちを込めてきれいにする姿が見られた。自分たちの環境を自分たちで整えるという自覚をもち、黙々と活動することができた。

また、下級生と上級生が関わりながら作業する姿も見られ、異学年交流のきっかけともなった。



(3) あいさつ強化週間企画・運営

2 学期末には、学校内だけではなく、年末年始を含む冬休み中のあいさつを強化したいと、運営委員会児童が強化週間を企画した。あいさつを返すだけが目的ではなく、①自分から、②明るく元気な声で、③目と目を合わせての 3 つの目標を掲げて、給食時の放送で全児童に周知した。また、あいさつが上手にできた児童には、運営委員会児童から、「あいさつ名人カード」が渡された。さらには、給食時に、上手にあいさつができた児童の紹介があり、放送に耳を傾ける姿が見られた。冬休みの生活目標にも、「あいさつが上手にできるようになりたい」と掲げる児童も多く、礼儀としてのあいさつを意識付けることができた。



3 成果と課題

- 新型コロナウイルス感染症対策の規制緩和に伴い、全校児童が集会や体験活動に参加し、人と人とがつながって生き生きと活動する楽しさを実感している姿が見られた。
- 運営委員会児童が学校の中心となって話し合い活動を進めることを通して、学校全体が同じ方向を向いてイベントに参加する姿が見られた。高学年の学級で話し合ったことを委員会の場に持ち寄るなど、様々な意見を認め合い、調整しながら意見をまとめることができるようになった。
- 高学年においては、委員会活動や学級会で話し合いをすることで、普段リーダーシップを発揮できない児童も「下級生のためなら」と目的を明確にし、積極的に話し合い活動に参加していた。また、下学年との関わりを通して、言葉遣いや態度など、多様な社会の中で一人一人が力を発揮している様子も見られた。
- 下学年は中心となって運営する高学年へ憧れを抱いたり、高学年は低学年の個性を認め合って一緒に活動を楽しんだり、互いに尊重し合う態度を育成することができた。
- 自己肯定感や自己有用感を高めるために、互いのよさや努力を認め合う場面が増えた。しかし、WEBQU 等を見ると、自己肯定感や自己有用感が低い児童がいるので、児童一人一人のよさや可能性などを積極的に認める評価の工夫が必要である。